

# 点描彩色木彫魚の樹脂封入の飾り物

千葉県立千葉南高等学校 井口 好司

タイトル通りの題材です。このパネルに使用している資料や写真は15年ほど前に教科研究員報告としてまとめたものですが、制作過程で様々な要素を経験できる作品として、時々授業の中に取り入れています。この題材を通して生徒に付けたい力は、何より「ものづくり」を楽しむ力です。以下は制作手順です。



図案制作

## ① 図案制作（2時間）

デザインを決めます。魚の形体や模様については資料を用意しますが、「創造の魚」ということで、自由に発想してもらいます。アイディアスケッチとして模様には鉛筆で明暗の調子をつけておきます。



木彫

## ② 木彫（6時間）

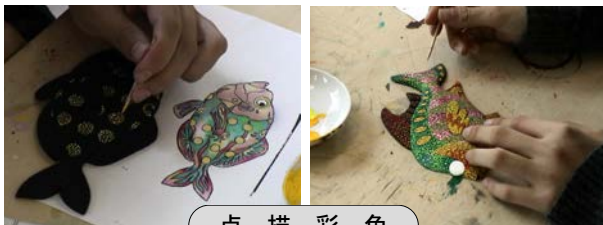
図案を10mm厚の板に転写し、電動糸鋸でアウトラインをカット、ナイフで加工していきます。ヒレの一部は1mm厚のバルサ材で別に作り、後で本体に接着させる方法をとると、生徒は手こずることが少なくなります。紙やすりで仕上げます。



色見本制作

## ③ 色見本制作（4時間）

PCで色見本を制作します。短時間で習得できる基本的な機能に絞って扱い方を指導し、彩色のイメージをモニター上で吟味していくといった感覚で使用させています。使用ソフトの練習が2時間、制作が2時間+居残り残業といったところです。



点描彩色

## ④ 点描彩色（6時間）

木彫に黒ジェッソで下地を塗り、色見本を基に、先を削った割り箸や爪楊枝を使って点描彩色していきます。単調なデザインであってもグラデーションなどを工夫することで、美しく仕上げることができます。「塗り」が苦手でも点描なら大丈夫。



型箱制作

## ⑤ 型箱制作（1時間）

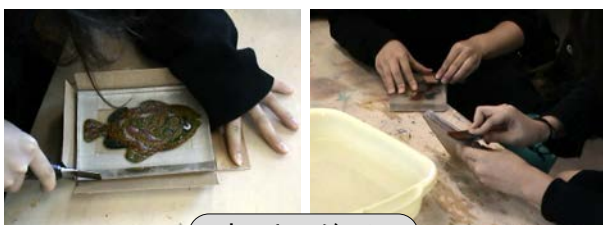
樹脂を流し込む型箱を作ります。ベースの厚紙に細かなシワをつけたアルミホイルを両面テープで張りつけ、そこに厚紙で作った囲いの壁を接着します。壁面はガムテープで補強し隙間はボンドで塞ぎ、樹脂が漏れないようにします。



透明樹脂で封入

## ⑥ 樹脂で封入（1時間）

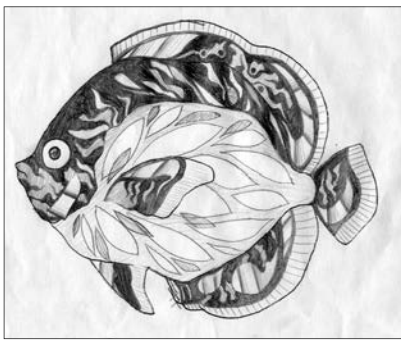
点描彩色された木彫を型箱内に固定し、硬化剤を混ぜた透明樹脂を流し込みます。絵具が溶けて滲むことがあるので、固定前に軽くクリアーニスを吹いておくとう安心です。素材の状態によっては気泡が発生しますので、予め実験が必要です。



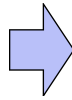
磨きだし

## ⑦ 磨きだし（4時間）

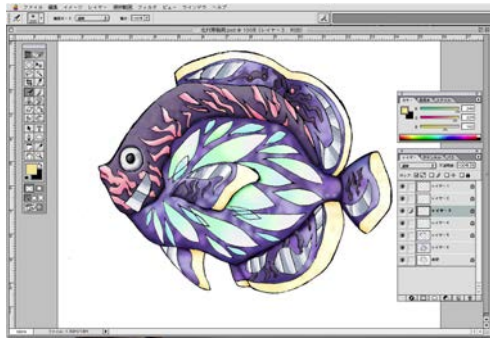
硬化後、型から取りだし、表面の状態を確認しながら80番から800番まで順番に7種類ほどの耐水ペーパーで磨いていきます。側面が粗い場合は最初の段階でドレッサーなどで成形してから作業します。最後は液体研磨剤で仕上げます。



図案制作



木彫



モニター画面上の完成した「色見本」



岡本 理奈



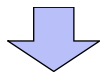
中尾有果里

色見本制作

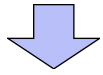
PC環境が整っていない場合は勿論、「色鉛筆でレッツゴー！」



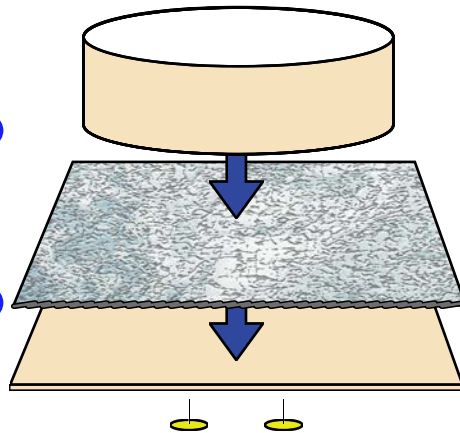
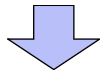
やっぱりこれが落ち着くねえ〜。



点描彩色



型箱制作



木彫魚を浮かせて固定する為、裏から画鋏を2カ所差し込む。

厚紙をリング状にして壁面を作ります。内側に紙製ツルツルガムテープ、外側に布製ガムテープを貼っておきます。

なぜなら

内側のツルツルは樹脂硬化後、壁面からペロリと剥がれます。外側の布製は樹脂の漏れ防止のためです。

アルミホイルをクシャクシャにし、それを破らない様にのぼしてから両面テープで台紙に貼付ける。

なぜなら

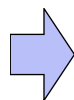
作品の裏面がアルミの効果で波間みたいな感じになります。樹脂硬化後の離型もすっきり。耐水ペーパーでの研磨作業はまったくナシでOKです。

樹脂を流し込んでも木彫が動かないし、少し下に隙間をあけて木彫を差し込むことで、その隙間(底面)にも樹脂が流れ込むから一石二鳥です。

なぜなら



透明樹脂で封入



磨きだし



参考作品 鶴巻 唯